

科目分類	専門科目群-専門科目（北東アジア領域）		対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義1（アジアの中の日本思想史）		学期	秋学期
代表教員	飯田 泰三（イイダ タイソウ）		選択/必修	選択
科目コード	H902242	授業形態	講義	単位数 2.0
授業の概要	<p>私の先生であった（今でもある）丸山眞男（1914～1996）の『日本の思想』（岩波新書）を読む。丸山眞男についてはWikipedia等で見ていただきたいが、いわゆる「戦後民主主義」、また戦後の「社会科学」を代表する知識人とされる人物であり、いわば近代日本が生んだ「知の巨人」の一人である。</p> <p>『日本の思想』は1961年、私が大学に入学した年に出て、私のその後の生き方を決める、決定的とも言える影響を受けた本である。</p>			
授業の内容	<p>第1～2回 「Ⅲ 思想のあり方について」を読む  第3～4回 「Ⅳ 『である』ことと『する』こと」を読む  第5～9回 「Ⅰ 日本の思想」を読む  第10～14回 「近代日本の思想と文学」  第15回 (筆記試験)</p>			
テキスト	丸山眞男（1914～1996）の『日本の思想』（岩波新書）			
参考文献	飯田泰三『戦後精神の光芒——丸山眞男と藤田省三を読むために』みすず書房、2006			
評価方法	平常点（参加・質疑応答）+ 筆記試験成績			
参考URL				
その他				

科目分類	専門科目群-専門科目（北東アジア領域）		対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義2（日本政治思想史）		学期	春学期
代表教員	飯田 泰三（イイダ タイソウ）		選択/必修	選択
科目コード	H902238	授業形態	講義	単位数 2.0
授業の概要	<p>近代日本思想史を概観する。          テキストとして『近代日本思想史大概』（法政大学出版局より年内に刊行を予定）を使う。          これは1998年に「かわさき市民アカデミー」で「近代日本の思想」という講座で話したもの（全14回）をテーブルから起したものである。</p>			
授業の内容	<p>第1回 日本近代思想史の方法と対象          第2回 維新啓蒙期の思想状況          第3回 福沢諭吉の思想          第4回 自由民権期の思想状況          第5回 中江兆民の思想          第6回 中江兆民の思想（続）          第7回 井上毅と近代天皇制国家の制作          第8回 明治二十年代の思想——平民主義と国民主義          第9回 日露戦後世代の登場と高山樗牛          第10回 明治社会主義の思想          第11回 吉野作造と大正デモクラシー          第12回 昭和マルクス主義の思想          第13回 昭和ファシズム期の思想          第14回 戦後民主主義と高度成長後の思想          第15回 （筆記試験）</p>			
テキスト	『近代日本思想史大概』（法政大学出版局より年内に刊行を予定）			
参考文献				
評価方法	平常点（参加・質疑応答）+ 筆記試験成績			
参考URL				
その他				

科目分類	専門科目群-専門科目（北東アジア領域）		対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義3（国際政治・安全保障研究）		学期	秋学期
代表教員	赤坂 一念		選択/必修	選択
科目コード	H902203	授業形態	講義	単位数 2.0
授業の概要	<p>【授業の概要】</p> <p>国際政治・安全保障の理論展開を、理念と現実の緊張関係に注目しながら取り上げる。とくに「安全保障の担い手は誰か」「何(誰)のための安全保障なのか」「どのような脅威・危険から守るのか」「どのように守るのか」といった視点から、「安全保障」を理論的、体系的に整理する。その視野としては、伝統的な安全保障観である国家に依拠した「国家の安全保障」論を踏まえた上で、ポスト冷戦期に入り脚光を浴びつつある新たな安全保障観である「人間の安全保障」にも光を当て、環境、食糧など、今日の市民社会を取り巻く安全保障問題について幅広く議論する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際政治／安全保障に関する基本原理・概念を、自己の言葉で論理的かつ分析的に思考／説明することができる。</li> </ul>			
授業の内容	<p>授業の進め方としては、ゼミナール形式とする。具体的には、毎回、担当教員による問題提起、質疑応答、ディスカッション、アドバイスを繰り返す。受講生の人数にもよるが、国際政治・安全保障に関する問題関心を深めるために、随時、文献講読、テーマ発表なども取り入れていきたい。</p>			
テキスト	<p>この授業では特定のテキストの使用を想定していないが、各回のテーマに関連した参考文献を適宜紹介していきたい。</p>			
参考文献	<p>この授業と問題関心が重なる日本語の文献として、さしあたり以下の文献を推奨したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防衛大学校安全保障学研究会編『安全保障学入門』（新訂第5版）亜紀書房、2018年。</li> <li>防衛大学校安全保障学研究会編『安全保障のポイントがよくわかる本』亜紀書房、2007年。</li> <li>赤根屋達雄・落合浩太郎『「新しい安全保障」論-人間・環境・経済・情報-』（増補改訂版）亜紀書房、2007年。</li> <li>土佐弘之『安全保障という逆説』青土社、2003年。</li> <li>土山實男『安全保障の国際政治学』（第2版）有斐閣、2014年。</li> <li>山本武彦『安全保障政策-経世済民・新地政学・安全保障共同体-』日本経済評論社、2009年。</li> <li>山本武彦編『国際安全保障の新展開-冷戦とその後-』早稲田大学出版部、1999年。</li> <li>人間の安全保障委員会報告書『安全保障の今日的課題』朝日新聞社、2003年。</li> <li>赤坂一念「ポスト冷戦期における日本の安全保障-国家・個人・地域の可能性-」宇野重昭編『北東アジア研究と開発研究』国際書院、2002年、449-66頁。</li> </ul>			
評価方法	<p>成績評価については、平常点と最終レポートによって評価する。なお、この最終レポートは、受講生が自らの研究テーマにひきつけて設定して作成していくという方法をとりたい。</p>			
参考URL				
その他	<p>【授業実施方法】</p> <p>対面授業の予定。ただし、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、オンライン（Teams）に切り替えることもあります。</p>			

科目分類	専門科目群-専門科目（北東アジア領域）		対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義5（北東アジア民族関係）		学期	秋学期
代表教員	井上 治		選択/必修	選択
科目コード	H902205	授業形態	講義	単位数 2.0
授業の概要	<p>今年度は、多民族国家である中国のイスラム系諸民族中の少数民族の創出と現状について、イスラム系多数派民族の回族や中国の多数派民族である漢族との関係に着目しつつ考察したい。具体的には、東郷族や保安族に関する論著を講読する形式で授業を進める。受講生は、宗教と集団形成過程などによって個別の民族名称を付された中国人の、異質性と同質性に配慮しながら、少数民族中国人の歴史と文化、社会について考えることができるようになることが期待できる。</p>			
授業の内容	<p>特に進度は設定しない。指定した論著の要約をレジュメにまとめることを求める。</p>			
テキスト	<p>受講生と相談して決めることにする。</p>			
参考文献	<p>必要に応じて別途指示する。</p>			
評価方法	<p>出席50%、課題（レジュメ）50%</p>			
参考URL				
その他	<p>テキストは、担当者が所蔵している文献を紹介することもできるし、受講生が学術ポータルサイトを通じて入手してもよい。</p>			

科目分類	専門科目群-専門科目(北東アジア領域)		対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義6(比較宗教文化論)		学期	秋学期
代表教員	渡辺 圭		選択/必修	選択
科目コード	H902206	授業形態	講義	単位数 2.0
授業の概要	<p>授業の概要：ある国の文化を学ぶとき、その国民の精神面に影響を与える要素は看過できない。本講義では、人類の精神的営為である「宗教」を素材として、北東アジアの精神文化の再考を試みる。宗教とは人間の歴史における「思索の営為」であり、「超越存在に対する憧憬」である。人間は対面する世界の諸現象(外的世界)の把握、そして人間そのものの「生きるという行為」の根本(内的世界)の探求等を試みてきた。その宗教を考察するのがディシプリンとしての宗教学である。宗教学は、現実に存在する「宗教」をありのままに捉えて記述する学問ジャンルであり、自分で「宗教を創りたい」という人にヒントを与える学問ではない。また、どの宗教が良くてどの宗教が悪いのかといった「価値判断」をする学問でもない。本講義はディシプリンとしての宗教学に立脚して行われる。</p> <p>授業の到達目標：</p> <p>「授業で提示された宗教の基礎知識を自己の言葉で説明できる。」(知識の習得)</p> <p>「一神教における神についての基本概念を自己の言葉で説明できる。」(概念の理解)</p> <p>「宗教学というディシプリン、思考のツールの基本原理を自己の言葉で説明できる。」(原理・原則の理解)</p> <p>「唯物論および無神論の問題について論理的に思考・表現することが出来る。」(論理的思考力・表現力)</p> <p>「講義で紹介された学説を、批判的に思考・表現することが出来る。」(批判的思考力・表現力)</p> <p>「哲学の思考の枠組みを用いた多文化共生の問題について分析的に思考・表現することが出来る。」(分析的思考力・表現力)</p>			
授業の内容	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 宗教学について</p> <p>第3回 呪術と宗教について</p> <p>第4回 ユダヤ教について</p> <p>第5回 キリスト教について①</p> <p>第6回 キリスト教について②</p> <p>第7回 キリスト教について③</p> <p>第8回 キリスト教について④</p> <p>第9回 イスラム教について①</p> <p>第10回 イスラム教について②</p> <p>第11回 仏教について①</p> <p>第12回 仏教について②</p> <p>第13回 現代社会におけるカルト、セクト、宗教原理主義について①</p> <p>第14回 現代社会におけるカルト、セクト、宗教原理主義について②</p> <p>第15回 全体総括</p>			
テキスト	担当教員がレジユメを作成し、順次配布する予定			
参考文献	担当教員が各授業ごとに提示する。			
評価方法	平常点(60%)とレポート(40%)を総合して成績を評価する。			
参考URL				
その他	授業は対面形式である(ただし、状況によりオンラインへの変更あり)。			

科目分類	専門科目群-専門科目(北東アジア領域)			対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義8(北東アジア経済研究)			学期	秋学期
代表教員	張 忠任			選択/必修	選択
科目コード	H902208	授業形態	講義	単位数	2.0
授業の概要	現代北東アジア経済の発展をもたらす内的、外的諸条件を検討し、諸国間や自治体間の経済関係を分析する。具体的には、戦後の北東アジア経済の変化、各国の経済発展戦略、財政を中心に経済制度の比較研究を行う。また、日・中・韓間の経済協力(環日本海経済圏と日・中・韓3国間のFTA問題を中心に)や貿易関係を考察する。受講生には紹介される事例の分析を通じて有効なアプローチや理論を発見し、今後の北東アジア地域にふさわしい未来志向の経済関係を構想することが求められる。				
授業の内容	第1回 インTRODクシヨN 第2回 「方法論としての北東アジア」について 第3回 北東アジアにおける資源と産業の相互補完性 第4回 北東アジアの水資源 第5回 北東アジアの交通条件(特に鉄道と港) 第6回 日本海における中国、ロシア、韓国、北朝鮮間の航路 第7回 北東アジアにおける国際貿易の現状と問題点 第8回 北東アジア諸国間のFDI 第9回 図們江開発計画の目標と主要開発モデル1 第10回 図們江開発計画の目標と主要開発モデル2 第11回 中国のニュー・ノーマルとサプライサイド改革 第12回 日中韓とASEANの経済関係 第13回 東アジア共同体問題について 第14回 北東アジア開発に関する研究課題と展望 第15回 総括				
テキスト	特定の教科書は用いない。必要に応じてプリントを配布する。最初の講義にて参考文献を解説する。				
参考文献	張 忠任「環日本海経済圏における諸問題とその対策」『中国と東アジア』No.35(1995.3) 張 忠任「環日本海経済圏：回顧と展望」『環日本海研究』第4号(1998.9) 坂田幹男『北東アジア経済論』ミネルヴァ書房、2001年 環日本海経済研究所『北東アジア経済白書 21世紀のフロンティア(2000年版)』毎日新聞社、2000年				
評価方法	レポート2回とするが、レポートに出席を加味して評価する。出席状況の悪いもの(70%以下)は不可になることを覚悟すること。				
参考URL					
その他					

科目分類	専門科目群-専門科目（北東アジア領域）		対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義9（北東アジア比較言語文化）		学期	春学期
代表教員	孟 達来		選択/必修	選択
科目コード	H902245	授業形態	講義	単位数 2.0
授業の概要	<p>本授業は、北東アジアから中央アジアにかけて分布するモンゴル諸語、チュルク諸語、満州・ツングース諸語といった「アルタイ諸言語」や、歴史上、北東アジア地域を中心に形成した「漢字文化圏」について取り上げ、比較の視点から、北東アジア地域の言語とその背景にある基礎文化について探究する。また、北東アジア地域の言語と文化の多様性、および具現する共通性について考えることを通じて、北東アジアの言語面と文化面での地域特性に関する理解を深める。</p>			
授業の内容	<p>本授業の内容は、二つの部分からなる。</p> <p>一つは、北東アジアから中央アジアにかけて広く分布するモンゴル諸語、チュルク諸語、満州・ツングース諸語といった「アルタイ諸言語」の相互関係、およびその背景にある基礎文化について学び、関連の課題について考える。</p> <p>もう一つは、歴史上、北東アジア地域を中心に形成した「漢字文化圏」について取り上げ、北東アジア地域における漢字の伝播、言語接触、および中国と日本の間における言語文化交流について学び、関連の課題について考える。</p>			
テキスト	授業時にプリントを配布する。			
参考文献	授業時に紹介する。			
評価方法	出席状況、課題などの取り組みや提出状況、期末レポート等を総合的に判断して評価する。			
参考URL				
その他				

科目分類	専門科目群-専門科目(北東アジア領域)		対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義10(日中関係)		学期	秋学期
代表教員	別枝 行夫		選択/必修	選択
科目コード	H902210	授業形態	講義	単位数 2.0
授業の概要	<p>19世紀末から今日まで約120年間にわたる日本と中国の関係を考える。1945年までについては担当教員による講義形式をとり、テキストを活用しながら概説を行う。1945年以降は受講する学生の分担報告形式をとり、皆で討論する。受講生の日中関係に関する知識の濃淡に応じて講義部分に当てる時間を調整する予定である。</p> <p>&lt;授業概要&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 19世紀末～1930年までの日本と中国(2回)</li> <li>2) 「日中戦争」期の日本と中国</li> <li>3) 旧・満洲国と中国・日本</li> <li>4) 新中国建国と日本</li> <li>5) 戦後日中関係-1(1949～1964年)</li> <li>6) 戦後日中関係-2 文化大革命と日本</li> <li>7) 戦後日中関係-3 日中国交正常化</li> <li>8) 戦後日中関係-4 経済関係の深化</li> <li>9) 戦後日中関係-5 政治関係の対立</li> <li>10) 戦後日中関係-6 中国新時代と日本</li> <li>11) 戦後日中関係-7 世界の中の日本と中国</li> <li>12)以降 大学院生による報告(第5回～第11回までの内容について)</li> </ol>			
授業の内容	<p>第1回 授業の進め方  第2回 日本と中国:19世紀末～1930年 第3回 日本と中国:19世紀末～1930年  第4回 「日中戦争」期の日本と中国  第5回 旧・満洲国と中国・日本  第6回 新中国建国と日本  第7回 戦後日中関係-1(1949～64年)  第8回 -2 文化大革命と日本  第9回 -3 日中国交正常化  第10回 -4 経済関係の深化  第11回 -5 政治関係の対立  第12回 -6 中国新時代と日本  第13回 -7 世界の中の日本と中国  第14回 大学院生による報告-1  第15回 「同上-2」</p>			
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大杉一雄『日中十五年戦争史』(中公新書)</li> <li>・毛里和子『日中関係』(岩波新書)</li> </ul>			
参考文献	授業で指示する。			
評価方法	毎回の報告状況と討論の程度によって評価する。 授業に欠席しないことを前提とする。			
参考URL				
その他				



科目分類	専門科目群-専門科目(北東アジア領域)		対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義11(平和学)		学期	春学期
代表教員	濱田 泰弘		選択/必修	選択
科目コード	H902211	授業形態	演習型式	単位数 2.0
授業の概要	<p>平和学は希望の学問である。エラスムス、そしてルソー、カントの時代にその端緒が開かれ、特に20世紀後半の冷戦の時代、核戦争の脅威が現実迫る中で、平和学が形成された。戦争と革命の時代(カール・シュミット)20世紀末、東西冷戦が終焉を遂げ、冷戦期核戦争の脅威は消え去ったが核拡散が続く、その脅威は21世紀にも未だ払拭されていない。21世紀は9.11同時多発テロで幕を開いた。新たなテロリズムの脅威が今日など続いている。さらに3.11以降の原子力エネルギー安全神話の終焉により、核の平和利用の道も危険視されている。ウルリッヒ・ベック「リスク時代」に人間の安全保障と平和構築に向けて処方方を講じる必要がある。</p> <p>20世紀の二つの大戦の追憶と戦争責任問題も現在の国際社会に深い淵を残している。ガルトウングの積極的平和やアマルティア・センの「人間の安全保障」を講じながら、テロや原子力発電所事故の新たな人為的リスクも視野に入れ平和の意義を問い直すことが現在問われている。特に専門であるナチズムの過去やホロコーストの戦争責任を克服する政治学的方法論をドイツの歩みから考える歴史学的、思想的な学習、欧米の平和学のテキスト、日本の文脈から講じる現実的な外交策等を講じていきたい。21世紀今日なお人類は平和を実現したとは言い難い。そこにまだ平和学の可能性が残されている。このように考えれば危機の時代の産物たる平和学は逆に希望を問う学問である。</p> <p>到達目標：  「文章を批判的に読むことができる。」(批判的読解能力)  「文章を要約できる。」(要約技術)  「レポートを作成できる。」(レポート作成能力)  「自分の意見を(文書で、口頭で、パワーポイントで)発表することができる。」(プレゼンテーション能力)</p>			
授業の内容	<p>毎回、基本的に出席者に課題を課し、大学院生のレジメ報告をもとに講義を進めていく予定である。課題としてレポート等を課す予定。テキスト、進路は学生の関心に応じて決定する。</p> <p>(予定)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンス イントロダクション</li> <li>2.丸山真男「超国家主義の論理と心理」</li> <li>3.トーマス・マン「ドイツとドイツ人」、『ドイツとドイツ人』講演集</li> <li>4.R.v.Weizsäcker, Vierzig Jahre danach, R, v. ヴァイツェッカー『荒野の40年』</li> <li>5.ヨハン・ガルトウング『構造的暴力と平和』1</li> <li>6.ヨハン・ガルトウング『構造的暴力と平和』2</li> <li>7.アマルティア・セン『人間の安全保障』1</li> <li>8.アマルティア・セン『人間の安全保障』2</li> <li>9.Jean Jacques Rousseau, Extrait du Projet de paix perpétuelle de Monsieur l'Abbé de Saint-Pierre 「サン=ピエール師の永久平和論抜粋」</li> <li>10.Immanuel Kant. Zum Ewigen Frieden, I・カント『啓蒙とは何か・永遠平和のために』</li> <li>11.M. ウォルツァー『正しい戦争と不正な戦争』(テロをめぐる数章)</li> <li>12.村瀬興雄『ナチズム—ドイツ保守主義の系譜』1</li> <li>13.村瀬興雄『ナチズム—ドイツ保守主義の系譜』2</li> <li>14.ヤスパース『戦争の罪を問う』</li> <li>15. まとめ 総括</li> </ol>			
テキスト	<p>※テキスト候補は以下。  基本的に受講生の研究テーマや問題関心に即して指定する。  必要に応じてコピー資料も配布する。</p> <p>丸山真男「超国家主義の論理と心理」『現代政治の思想と行動』、アマルティア・セン『人間の安全保障』、トーマス・マン『ドイツとドイツ人』、ヴァイツェッカー『荒野の40年』、ヤスパース『戦争の罪を問う』、I・カント『永遠平和のために』、村瀬興雄『ナチズム—ドイツ保守主義の系譜』、山口定『ファシズム』、ヨハン・ガルトウング『構造的暴力と平和』、ルソー「サン=ピエール師の永久平和論抜粋」『ルソー全集9巻』その他</p>			
参考文献	<p>ウルリッヒ・ベック『危険社会』、本田宏・若尾祐司『反核から脱原発へ』、アドルノ/ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』、トーマス・ニッパード『ドイツ史を考える』、ヴォルフガング・ヴィッパーマン『議論された過去—ナチズムに関する事実と論争』、I・カント『永遠平和のために』、林健太郎『ワイマル共和国—ヒトラーを出現させたもの』、山口定『ファシズム』、細見和之『フランクフルト学派』、アドルノ/ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』、藤田省三『天皇制国家の支配原理』、ジョセフ・ナイ『国際紛争—理論と歴史』、林健太郎『ワイマル共和国—ヒトラーを出現させたもの』、ハンナ・アーレント『全体主義の起源』、庄司克宏『ヨーロッパのポピュリズム』ちくま新書、豊田知</p>			

	世・瀨田泰弘・福原裕二・吉村慎太郎共編著『現代アジアと環境問題-多様性とダイナミズム』花伝社 他。
評価方法	出席等の平常点（50%）、レポートや研究報告等の課題（50%）等で総合評価する。
参考URL	
その他	務家教員としては専門図書館の職員経験を活かし学術図書、論文等の資料収集方法の指導を行う。 ※状況に応じてオンラインによる開講可能性がある。

科目分類	専門科目群-専門科目（北東アジア領域）		対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義12（北東アジア国際関係史）		学期	秋学期
代表教員	李 暁東		選択/必修	選択
科目コード	H902212	授業形態	講義	単位数 2.0
授業の概要	近代北東アジア地域は、「万国公法」（国際法）に象徴される近代国家システムの受容と、中華世界システムの崩壊の過程にあり、この時期の国際関係はすなわちこの二つの世界観がぶつかり合ったなかで展開されたものであった。そして、展開の過程で、北東アジア地域は「ウェスタン・インパクト」に強く影響された一方、この地域における諸国の政治、文化によって左右されていた。本演習は以上のような「新・旧」と「内・外」の視点からこの時期の北東アジア国際関係史をとらえる。			
授業の内容	参考文献を中心に報告をしみんなで討論するという形でゼミを進めていく。特に歴史的な観点から中国や、日本、朝鮮半島など、異なった視角から現代に資する北東アジア地域の国際関係史を考えていきたい。			
テキスト				
参考文献	福澤諭吉『文明論の概略』 中江兆民『三酔人経綸問答』 陸奥宗光『けんけん録』 松澤弘陽『近代日本の形成と西洋経験』岩波書店、1993年 坂野正高『近代中国外交史研究』岩波書店、1970年 浜下武志『近代中国の国際的契機?朝貢貿易システムと近代アジア』東大、1990年 佐藤慎一『近代中国の知識人と文明』東京大学出版会、1996年 野村浩一『近代日本の中国認識』 宇野重昭編『深まる侵略 屈折する抵抗?一九三〇年?四〇年代の日・中のはざま』研文出版、2001年 藤田雄二『アジアにおける文明の対抗?攘夷論と守旧論に関する日本、朝鮮、中国の比較研究』御茶ノ水書房、2001年			
評価方法	演習への姿勢、期末小論文などによっておこなう。			
参考URL				
その他				

科目分類	専門科目群-専門科目(北東アジア領域)		対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義13(北東アジア比較政治)		学期	秋学期
代表教員	李 正吉(イ ジョンギル)		選択/必修	選択
科目コード	H902213	授業形態	講義	単位数 2.0
授業の概要	<p>本授業は北東アジア比較政治に関するもので、比較政治学的観点に基づいて韓国の民主化・民主主義を学ぶ。北東アジアの真ん中に位置している朝鮮半島(韓国)は、地政学上、大陸・海洋勢力の利害が最も先鋭に衝突する場所である。だから、常に国際情勢の変化と周辺国との関係によって、朝鮮半島は自らの生存と繁栄とが規定されてきた。たとえば、朝鮮半島は1945年8月植民地解放直後、米・ソ冷戦によって「南北分断」が余儀なくされた。その後の3年間の朝鮮戦争は「南北分断」が定着され、韓国・北朝鮮は安全保障上の危機を理由にして長期間の非民主主義体制(権威主義・全体主義)を持続してきた。しかし、一方で韓国はわずか30年間で圧縮成長(産業化・民主化)を成し遂げた。本授業では、そのダイナミズムを「国際体制(米・ソ・中・日)」、「分断体制(韓国・北朝鮮)」、及び「国内体制(韓国)」という枠組みで重層的に概観しつつ、北東アジアにおける韓国民主化の意義を考察することにする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の韓国政治とその問題に対する分析能力を備えることができる。</li> </ul>			
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 韓国政治における「87年民主化」の意義  第3回 米軍政期における国家建設と朝鮮戦争  第4回 李承晩政権期の憲法改正  第5回 1960年4・19革命の意義と限界  第6回 1961年5・16軍部クーデターと朴正熙政権の成立  第7回 朴正熙政権期の対外関係と軍部権威主義体制の安定  第8回 デタントと維新体制  第9回 1979年12・12事態と1980年光州民主化運動  第10回 全斗煥政権の成立と1982年釜山文化院放火事件  第11回 1985年2・12総選挙と「87年民主化」  第12回 民主化以後の韓国政治①: 盧泰愚政権と金泳三政権  第13回 民主化以後の韓国政治②: 金大中政権と盧武鉉政権  第14回 民主化以後の韓国政治③: 李明博政権と朴槿恵政権  第15回 蠟燭革命と今後の韓国政治</p>			
テキスト	特に指定はありませんが、必要に応じてプリントや新聞スクラップを配布することもある。			
参考文献	<p>参考文献については、授業の際にも紹介するが、とりあえず必要最低限の文献のみを取り上げておく。(すべてを読まなくても構わない)</p> <p>李正吉『韓国政治の転換点: 分断と民主主義の政治力学』国際書院、2020年。  文京洙『文在寅時代の韓国: 「弔い」の民主主義』岩波新書、2020年。  木宮正史『韓国: 民主化と経済発展のダイナミズム』ちくま新書、2014年。  森山茂徳『韓国現代政治』東京大学出版会、1998年。  Juan J Linz and Alfred Stepan, Problems of Democratic Transition and Consolidation: Southern Europe, South America, and post-communist Europe, Johns Hopkins University Press, 1996. (荒井祐介・五十嵐誠一・上田太郎訳『民主化の理論: 民主主義への移行と定着の課題』一藝社、2005年)  Robert A. Dahl, Polyarchy: Participation and Opposition, Yale University Press, 1971. (高島通敏・前田脩訳『ポリアーキー』三一書房、1981年)  Samuel P. Huntington, The Third Wave: Democratization in the Late Twentieth Century, University of Oklahoma Press, 1991. (坪郷實・中道寿一・藪野祐三訳『第三の波: 20世紀後半の民主化』三嶺書房、1995年) など</p>			
評価方法	成績は出席・発表の実施を通して、総合的に評価を行う。			
参考URL	特記事項なし			
その他	特記事項なし			

科目分類	専門科目群-専門科目(北東アジア領域)		対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義14(近代政治原理成立史)		学期	秋学期
代表教員	村井 洋(ムライ ヒロシ)		選択/必修	選択
科目コード	H902237	授業形態	講義	単位数 2.0
授業の概要	<p>「近代政治原理」の探求は戦後日本政治学の努力の結晶を再取得する作業である。ここで追求された課題とは、英国の哲学者バートランド・ラッセルが「20世紀に至って未だに王権神授説に拘泥している唯一の例」とした日本国体論の崩壊を受けて、政治社会を基礎づける「原理」を発見しようとするのである。この意味で「近代政治原理」研究は日本のみならず、北東アジア各国にそれぞれ課せられたものと考えてよい。開発研究との関係では、トマス・ジェファーソンたちが提唱したような地域住民自治の原理(ウォードシステム)のように、地域開発論に不可欠であっても従来必ずしも強く意識されていなかった地域政治原理論の重要性を再認識することに繋がる。</p> <p>こうした問題意識の下に本講義はルネサンスを機に発展した「共和主義の原理」と、宗教改革から展開する「近代自然法思想」(社会契約説)、そして紆余曲折を経て国連憲章と日本国憲法に書き込まれるに至った「平和原理」を扱う。これらの原理は相互に触発し合い、場合によっては「ハレーション」をおこして現代に至った。「成立史」はこの事情にも触れる。なお、本授業は講義形式をとるが、受講者の問題意識をも可能な限り講義内容に織り合わせ、また受講者の関心を考慮したサブテキストを購読する。2021年度はM.ウェーバー『仕事としての学問』、小塚荘一郎『AIの時代と法』、2020年は川島武宜「カントの婚姻論」宇沢弘文『人間の経済』を取り上げた。</p>			
授業の内容	<p>第1回 「近代政治原理成立史」研究の意味  第2回 ルネサンスと宗教改革  第3回 マキアヴェリ(1)『君主論』  第4回 マキアヴェリ(2)『ディスコルシ(政略論)』と共和主義原理  第5回 ホブズ  第6回 ロック  第7回 ルソー  第8回 近代国家と平和原理の析出  第9回 二十世紀の経験と平和原理の展開  第10回 近代政治原理の批判と継承(1)  第11回 近代政治原理の批判と継承(2)  第12回 近代政治原理の批判と継承(2)  第13回 購読(1)  第14回 購読(2)  第15回 購読(3)  第16回 総括とレポート作成案内</p>			
テキスト	特に指定しない。ハンドアウト(手製資料)を配布する。			
参考文献	福田歆一『近代政治原理成立史序説』、『政治学史』、『ルソー』 加藤節『近代政治哲学と宗教』、『ジョン・ロック』李曉東『現代中国の省察』 岩下明裕編『北東アジアの地政治』			
評価方法	出席およびレポートによる			
参考URL				
その他				

科目分類	専門科目群-専門科目(北東アジア領域)		対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義15(国際関係)		学期	秋学期
代表教員	佐藤 壮		選択/必修	選択
科目コード	H902215	授業形態	講義	単位数 2.0
授業の概要	<p>【講義の概要と目的】</p> <p>この講義は、大学院生に国際関係論(International Relations: IR)・国際政治学の理論的パラダムや論争を紹介するとともに、社会科学の方法論に関する基礎的な論争を概観することにより、受講生が理論と方法論について習熟し、それらの有効性を批判的に評価できるようになることを目指す。このため、国際関係論の代表的な文献や方法論に関する文献を通じて、理論的・方法論的論争の概略を提示する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズムなどの理論的アプローチの特徴と、諸理論間の論争における争点が理解できる。</li> <li>国際関係論・国際政治学の主要な分析概念を定義できる。</li> <li>社会科学の方法論を理解し、自らの研究で用いる研究手法を方法論のなかに位置づけることができる。</li> </ul>			
授業の内容	<p>【講義の進め方】</p> <p>毎回講義の冒頭で講義担当者が理論およびテーマに関する概説をおこなった後、受講生同士の討論に移る。受講生は文献に関する疑問や論点を提示し、議論をリードすることが期待される。講義内容や計画に関して、受講生の希望や研究課題に応じて、適宜変更することがある。</p> <p>第1回 導入：講義のねらい、講義の進め方のガイダンス</p> <p>第2回 学術分野としての国際関係論の成り立ち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山本吉宣.2008.『国際レジームとガバナンス』有斐閣,序章.</li> <li>Walt, Stephan M.1998. International Relations: One World, Many Theories. Foreign Policy, No. 110. p. 29-46.</li> <li>中西寛.2009.「国際政治理論」日本国際政治学会編『日本の国際政治学1』有斐閣.</li> </ul> <p>第3回 勢力均衡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鈴木基史.2007.『平和と安全保障』東京大学出版会.第1章,第2章,第3章.</li> </ul> <p>第4回 国際関係における覇権と階層性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>G・ジョン・アイケンベリー著,細谷雄一訳.2012『リベラルな秩序か帝国か：アメリカと世界政治の行方』勁草書房.第3章,第4章.</li> </ul> <p>第5回 合理的選択アプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本国際政治学会編.2015.『国際政治』181号「国際政治における合理的選択」所収,飯田論文,畠山論文.</li> </ul> <p>第6回 コンストラクティヴィズム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大矢根聡編.2013.『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣.</li> </ul> <p>第7回 対外政策の国内要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>須藤季夫.2007.『国家の対外行動』東京大学出版会.</li> <li>日本国際政治学会編.2009.『日本の国際政治学1 学としての国際政治』有斐閣,信田智人論文.</li> </ul> <p>第8回 国際制度論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本国際政治学会編.2009.『日本の国際政治学1 学としての国際政治』有斐閣,飯田敬輔論文.</li> </ul> <p>第9回 国際政治経済学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>飯田敬輔.2007.『国際政治経済』東京大学出版.</li> <li>日本国際政治学会編.2009.『日本の国際政治学1 学としての国際政治』有斐閣,田所昌幸論文.</li> </ul> <p>第10回 批判理論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本国際政治学会編.2009.『日本の国際政治学1 学としての国際政治』有斐閣,御巫由美子論文.</li> </ul> <p>第11回 国際関係論における歴史的アプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保科広至.2015.『歴史から理論を創造する方法—社会科学と歴史学を統合する』勁草書房.</li> </ul> <p>第12回 非伝統的安全保障</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遠藤誠治・遠藤乾編.2014.『シリーズ日本の安全保障 安全保障とは何か』岩波書店,遠藤乾論文および土佐弘之論文.</li> </ul> <p>第13回 地域としてのアジア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毛里和子.2010.「地域研究と国際関係学のあいだ—中国研究の立場から」山本武彦編『国際関係論のニュー・フロンティア』成文堂.</li> <li>Katzenstein, Peter J.2002. Area Studies, Regional Studies, and International Relations. Journal of East Asian Studies 2(1). Reprinted in Shaun Breslin and Richard Higgott eds.2010. International Relations of the Asia-Pacific, Volume I, Sage.</li> </ul>			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Pempel, T. J. ed. 2005. Remapping East Asia: The Construction of a Region. Cornell University Press.</li> </ul> <p>第14回 研究デザインと方法論（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 吉川直人・野口和彦編.2015.『国際関係理論 第2版』勁草書房, 第2章?第4章.</li> </ul> <p>第15回 研究デザインと方法論（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アレキサンダー・ジョージ、アンドリュー・ベネット.2013.『社会科学のケース・スタディー理論形成のための定性的手法』勁草書房.</li> <li>・ ヘンリー・ブレイディ、デヴィッド・コリアー.2014.『社会科学の方法論争—多様な分析道具と共通の基準 [原著第2版] 』勁草書房.</li> </ul>
テキスト	<p>【必読文献】</p> <p>毎回の講義テーマに関する必読文献を指定するので、受講生は事前に精読して講義に臨むこと。</p>
参考文献	<p>必読文献で示したもののほか、適宜紹介する。</p>
評価方法	<p>【単位修得要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義中の討論への積極的参加（20%）</li> <li>・ 必読文献に関する報告（20%）</li> <li>・ 期末ペーパー（60%）</li> </ul>
参考URL	
その他	

科目分類	専門科目群-専門科目（北東アジア領域）		対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義16（北東アジア比較社会論）		学期	春学期
代表教員	山本 健三		選択/必修	選択
科目コード	H902240	授業形態	講義	単位数 2.0
授業の概要	<p>本講義では、北東アジア近代社会の形成過程とそれに関する言説について検討する。とりわけ、北東アジアという空間を織り成す人・物・情報の〈移動〉に着目する。そしてこの〈移動〉が地域と人々の意識に及ぼす影響を検討し、北東アジアの社会構造とイデオロギーの特徴を理解するための視座を獲得することを目的とする。</p> <p>今学期は特にS. Konishiの「アナーキズム的近代」論に依拠しながら、北東アジアにおける近代と社会について考えてみたい。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北東アジア社会の特徴を理解し、論理的に説明できる。</li> <li>・北東アジアの歴史と国際関係に関する言説に関して、批判的に考察できる。</li> </ul>			
授業の内容	<p>この授業は、双方向型講義で進める。</p> <p>毎回教科書の内容について教員が簡単な説明とともに問題提起し、それに対して学生は答え、さらに新たな問題提起をすることが望まれる。</p> <p>このような形式なので、進度は議論の展開や学生の理解の度合いによって、毎回異なってくるのが予想される。それゆえに回ごとの予定は立てられない。</p>			
テキスト	Sho Konishi, <i>Anarchist Modernity: Cooperation and Japanese-Russian Intellectual Relations in Modern Japan</i> (Cambridge and London: Harvard University Asia Center, 2013).			
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Iver B. Neumann, <i>Uses of the Other: "The East" in European Identity Formation</i> (Minneapolis: University of Minnesota Press, 1999).</li> <li>・ 植村邦彦『アジアは〈アジア的〉か』ナカニシヤ出版、2006年。</li> <li>・ Troy R. E. Paddock, <i>Creating the Russian Peril: Education, the Public Sphere, and National Identity in Imperial Germany, 1894-1914</i> (Rochester, New York: Camden House, 2010).</li> <li>・ Michael Keevak, <i>Becoming Yellow: A Short History of Racial Thinking</i> (Princeton and Oxford: Princeton University Press, 2011).</li> <li>・ 梅森直之『初期社会主義の地形学：大杉栄とその時代』有志舎、2016年。</li> <li>・ 山本健三「20世紀初頭の東アジアにおけるクロポトキン主義の拡散：科学主義と道徳性」『初期社会主義研究』第29号、2021年。20～34頁。</li> </ul> <p>参考文献は、授業でも適宜紹介する。</p>			
評価方法	平常点（出席・質疑応答）50%、課題レポート50%。			
参考URL				
その他	毎回テキストを読んで授業に臨まなければならない。			



科目分類	専門科目群-専門科目（北東アジア領域）		対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義17（朝鮮半島研究）		学期	春学期
代表教員	福原 裕二		選択/必修	選択
科目コード	H902243	授業形態	講義	単位数 2.0
授業の概要	<p>「北東アジア」という国際環境のなかで、朝鮮半島の現代政治・外交の諸相がいかに形成され、展開されてきたのかについて考究することを目的とする。地域研究を意識した専門講義として、適宜地域研究の手法を概説するとともに、朝鮮半島地域の総合的な理解を作り出す基盤としての政治・経済・社会・文化のシステムやその具体的な在り方にも論及する。</p>			
授業の内容	<p>■第1回...イントロダクション：地域研究とは何か（第2章...朝鮮半島の「現在」：通底する「朝鮮半島問題」の論理〔福原裕二『北東アジアと朝鮮半島研究』国際書院、2015年所収〕）</p> <p>■第2回...朝鮮半島地域研究の「理解」（第1章...朝鮮半島を「理解」するとはどういうことか〔福原裕二『北東アジアと朝鮮半島研究』国際書院、2015年所収〕）</p> <p>■第3回...ナショナリズムと朝鮮半島（第1章...ナショナリズムと朝鮮半島〔木宮正史『ナショナリズムから見た韓国・北朝鮮近現代史』講談社、2018年所収〕）</p> <p>■第4回...日本の植民地支配と朝鮮ナショナリズム（第2章...日本の植民地支配と朝鮮ナショナリズム―八七五年～一九四五年〔木宮正史『ナショナリズムから見た韓国・北朝鮮近現代史』講談社、2018年所収〕）</p> <p>■第5回...冷戦体制下の分断・競争ナショナリズム（第3章...冷戦体制下の分断・競争ナショナリズム：北朝鮮優位（一九四〇年代～六〇年代）〔木宮正史『ナショナリズムから見た韓国・北朝鮮近現代史』講談社、2018年所収〕）</p> <p>■第6回...冷戦変容下の分断・競争ナショナリズム（第4章...冷戦変容下の分断・競争ナショナリズム：韓国優位へ（一九七〇年代・八〇年代）〔木宮正史『ナショナリズムから見た韓国・北朝鮮近現代史』講談社、2018年所収〕）</p> <p>■第7回...ポスト冷戦下南北ナショナリズムの非対称性（第5章...ポスト冷戦下南北ナショナリズムの非対称性一九九〇年代以降〔木宮正史『ナショナリズムから見た韓国・北朝鮮近現代史』講談社、2018年所収〕）</p> <p>■第8回...中国の大国化と南北ナショナリズムの現在（第6章...中国の大国化と南北ナショナリズムの現在：南北の「用米」「用中」ナショナリズム〔木宮正史『ナショナリズムから見た韓国・北朝鮮近現代史』講談社、2018年所収〕）</p> <p>■第9回...朝鮮ナショナリズムと日本（第7章...朝鮮ナショナリズムと日本〔木宮正史『ナショナリズムから見た韓国・北朝鮮近現代史』講談社、2018年所収〕）</p> <p>■第10回...朝鮮半島の統一とナショナリズム（第8章...朝鮮半島の統一とナショナリズム〔木宮正史『ナショナリズムから見た韓国・北朝鮮近現代史』講談社、2018年所収〕）</p> <p>■第11回...事例研究Ⅰ：竹島／独島問題①（第6章...実践としての竹島／独島研究①：第三の視角〔福原裕二『北東アジアと朝鮮半島研究』国際書院、2015年所収〕）</p> <p>■第12回...事例研究Ⅱ：竹島／独島問題②（第7章...実践としての竹島／独島研究②：経済的価値と地域の生活〔福原裕二『北東アジアと朝鮮半島研究』国際書院、2015年所収〕）</p> <p>■第13回...事例研究Ⅲ：朝鮮半島の非核化問題①（第3章...北朝鮮の核兵器開発の背景と論理〔吉村慎太郎・飯塚央子『核拡散問題とアジア：核抑止論を超えて』国際書院、2009年所収〕）</p> <p>■第14回...事例研究Ⅳ：朝鮮半島の非核化問題②（第3章...朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の「核」をどう考えるか〔高橋伸夫編『アジアの「核」と私たち：フクシマを見つめながら』慶應義塾大学出版会、2014年所収〕）</p> <p>■第15回...コンクルージョン：フリーディスカッション</p>			
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>●吉村慎太郎・飯塚央子編『核拡散問題とアジア：核抑止論を超えて』国際書院、2009年</li> <li>●高橋伸夫編『アジアの「核」と私たち：フクシマを見つめながら』慶應義塾大学出版会、2014年</li> <li>●福原裕二『北東アジアと朝鮮半島研究』（北東アジア学創成シリーズ第2巻）国際書院、2015年</li> <li>●木宮正史『ナショナリズムから見た韓国・北朝鮮近現代史』講談社、2018年</li> </ul> <p>（そのほか、必要に応じて紹介します）</p>			
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓培浩、木宮正史・磯崎典世訳『韓国政治のダイナミズム』法政大学出版局、2004年</li> <li>●船橋洋一『ザ・ベニンシユラ・クエスチョン：朝鮮半島第二次核危機』朝日新聞社、2006年</li> <li>●玄大松『領土ナショナリズムの誕生：「独島／竹島問題」の政治学』ミネルヴァ書房、2006年</li> <li>●岩田修一郎『核拡散の論理：主権と国益をめぐる国家の攻防』勁草書房、2010年</li> <li>●崔章集、磯崎典世他訳『民主化以後の韓国民主主義：起源と危機』岩波書店、2012年</li> <li>●池内敏『竹島問題とは何か』名古屋大学出版会、2012年</li> </ul>			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道下徳成『北朝鮮 瀬戸際外交の歴史：1966～2012年』ミネルヴァ書房、2013年</li> <li>●木宮正史〔責任編集〕『朝鮮半島と東アジア』（シリーズ日本の安全保障6）岩波書店、2015年</li> <li>●糟谷憲一、並木真人、林雄介『朝鮮現代史』山川出版社、2016年</li> <li>●中川雅彦編『国際制裁と朝鮮社会主義経済』アジア経済研究所、2017年</li> <li>●伊藤亜人『北朝鮮人民の生活：脱北者の手記から読み解く実相』弘文堂、2017年</li> <li>●三村光弘『現代朝鮮経済：挫折と再生への歩み』日本評論社、2017年</li> <li>●梅林宏道『北朝鮮の核兵器—世界を映す鏡—』高文研、2021年</li> <li>●岩下明裕編著『北東アジアの地政治—米中日口のパワーゲームを超えて』北海道大学出版会、2021年 (そのほか、必要があれば適宜紹介します)</li> </ul>
評価方法	聴講姿勢と議論に対する貢献度、課題の達成度、学期末レポートを加味して評価する。
参考URL	
その他	

科目分類	専門科目群-専門科目（北東アジア領域）			対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義18（企業戦略）			学期	春学期
代表教員	村山 誠			選択/必修	選択
科目コード	H902218	授業形態	講義	単位数	2.0
授業の概要	<p>企業は常に変化する環境下において、他社と競争を繰り返していかなければならない。そうした他社との競争に勝ち抜いていくためには戦略が求められる。この戦略次第では勝てる競争でも負けてしまうことがある。</p> <p>経営戦略には、企業戦略・事業戦略・機能戦略という3つのレベルがある。企業戦略は経営戦略の最上流に位置するものである。この企業戦略では、事業領域、経営資源、成長戦略、成長マトリックス、ポートフォリオ（資源分配）などの要素が含まれている。</p> <p>本講義では、事業領域、経営資源、成長戦略などの要素について理解を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 企業戦略の観点から、中長期的な企業の戦略を分析・評価することができる。</p>				
授業の内容	<p>受講生の研究テーマを考慮した上で、</p> <p>(1) 事業戦略 (2) 経営資源 (3) 成長戦略 (4) イノベーション</p> <p>について、受講生の毎回のプレゼン、調査報告を中心に質疑応答形式で進める。</p>				
テキスト	適宜指示する。				
参考文献	<p>青島弥一、加藤俊彦「競争戦略論」東洋経済新報社          ジョーン・マグリッタ「戦略と経営」ダイヤモンド社          Micheal E. Porter「On Strategy」Harvard Business Review Press</p>				
評価方法	<p>・毎回のプレゼンテーションの内容、講義での質疑応答、積極性（50%）          ・課題レポート（50%）          自ら学び、研究する意欲を重視する。</p>				
参考URL					
その他	<p>本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、航空関連企業において情報システムの企画（業務分析・業務の再構築）から運用までの実務経験、組織管理職としての組織運営（計画策定・実行・評価等）に関する実務経験、グループ企業全体の情報セキュリティ管理（企画・自社分析・他社分析・調査・中期計画策定等）及び情報セキュリティ対策（インシデント対応、セキュリティ教育等）に関する実務経験に基づいたより実践的な講義を展開する。</p> <p>また、社会で活躍するために必要となる「考える力」、「発信する力」、「理解する力」などを重視した講義になるように努める予定。</p>				

科目分類	専門科目群-専門科目（北東アジア領域）		対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義19（国際関係史）		学期	秋学期
代表教員	高 一		選択/必修	選択
科目コード	H902246	授業形態	講義	単位数 2.0
授業の概要	<p>本年度の北東アジア専門講義19（国際関係史）は、第2次世界大戦後に長く続いた冷戦という国際システムの変容過程について検討する。国際関係史や国際関係論を専攻する大学院生の基礎的な作業として、『冷戦 ワールドヒストリー』（O.A.ウェスタッド著）をテキストとして読み進めことで、冷戦の起源・展開・終結について議論する授業を展開する予定である。</p>			
授業の内容	<p>第1回 ガイダンス 第2回～第15回 輪読</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回1～2章分程度読み進め、その内容について議論する。履修者はテキストを事前に読み、考えを整理しておくこと。</li> <li>・ 授業は報告者作成によるレジюме（要約・コメント）を基にした発表から始まり、その後にディスカッションを展開する。報告者は必ずレジюмеを準備すること。</li> </ul>			
テキスト	<p>O.A.ウェスタッド（益田実監訳、山本健/小川浩之訳）『冷戦 ワールドヒストリー』上下（岩波書店、2020年）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受講生の問題関心などに応じて、その他の文献をテキストとして用いることもある。</li> </ul>			
参考文献	<p>有賀貞『現代国際関係史：1945年から21世紀初頭まで』東京大学出版会、2019年。 O.A.ウェスタッド（佐々木雄太監訳）『グローバル冷戦史』名古屋大学出版会、2010年。 ウォルター・ラフィーバー『アメリカVSロシア—冷戦時代とその遺産』芦書房、2012年。 エリック・ホブズボーム（河合秀和訳）『20世紀の歴史：極端な時代』上下、三省堂、1996年。 木畑洋一『20世紀の歴史』岩波新書、2014年。 油井大三郎『戦後世界秩序の形成：アメリカ資本主義と東地中海地域1944-1947』東京大学出版会、1985年。 ロバート・マクマン（青野利彦監訳）『冷戦史』勁草書房、2018年。</p>			
評価方法	報告レジюмеやプレゼンテーション、ゼミでの発言などにおける積極性によって評価する。			
参考URL				
その他				

科目分類	専門科目群-専門科目(北東アジア領域)		対象学年	1	
授業科目	北東アジア専門講義20(アメリカ研究)		学期	春学期	
代表教員	佐藤 壮		選択/必修	選択	
科目コード	H902220	授業形態	講義	単位数	2.0
授業の概要	<p>【講義の概要と目的】</p> <p>本講義の目的は、受講生がアメリカ合衆国の内政と外交への理解を深め、現代アメリカ社会の諸事象を政治学的アプローチによって分析する視点を獲得することである。本講義では、アメリカ合衆国の政治・外交分野を中心に、国内の経済・社会・文化の諸分野における現象を分析する文献を取り上げて、受講生が歴史的背景や構造的要因を理解することを促す。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカの政治・外交分野における論点を析出し、分析的に理解できる。</li> <li>・アメリカが現代の東アジア地域にどのように関与しているのか理解できる。</li> </ul>				
授業の内容	<p>【講義の進め方】</p> <p>各回のテーマに関する文献の概要を確認しながら、受講生との議論を中心に進める。また、講義内容や計画に関して、受講生の希望や研究テーマに応じて、適宜変更することがある。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン：講義のねらいと講義の進め方のガイダンス  第2回 アメリカ独立革命の展開(アーミテイジ『独立宣言の世界史』第1章)  第3回 新共和国の建設と試練(ハミルトン他『ザ・フェデラリスト』)  第4回 民主主義の拡大(トクヴィル『アメリカのデモクラシー』)  第5回 アメリカニズム(古矢『アメリカニズム』第1章)  第6回 人種とエスニシティをめぐる政治(1) 奴隷制度(ジェイコブズ『ある奴隷少女に起こった出来事』)  第7回 人種とエスニシティをめぐる政治(2) 南北戦争後の人種問題(中野『20世紀アメリカ国民秩序の形成』第2章)  第8回 人種とエスニシティをめぐる政治(3) 「新しい移民」の流入と社会統合(『史料で読むアメリカ文化史3』第I部、中野『アメリカ合衆国と中国系移民』第6章)  第9回 人種とエスニシティをめぐる政治(4) マイノリティの地位向上における相克(『現代思想』2020年10月臨時増刊号「ブラック・ライブズ・マター」)  第10回 アメリカと帝国主義(『アメリカ：「帝国」の中の反帝国主義』)  第11回 アメリカと国際主義(秋元「ウィルソンの国際秩序思想」『国際政治』第198号)  第12回 アメリカとアジア冷戦(菅『冷戦と「アメリカの世紀」』第1章、第2章)  第13回 アメリカの国際秩序(アイケンベリー『リベラルな秩序か帝国か(上)』第3章)  第14回 米中「新冷戦」?(佐橋編『冷戦後の東アジア秩序』終章)  第15回 現代アメリカ社会の多様化・多極化・分断化(渡辺『白人ナショナリズム』第4章、第5章)</p>				
テキスト	<p>特定のテキストを定めず、各回のテーマに応じて文献を選定する。  文献の入手方法は、担当教員が指示する。</p>				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡山裕『アメリカの政党政治：建国から250年の軌跡』中央公論新社、2020年。</li> <li>・川島正樹編『アメリカニズムと「人種」』名古屋大学出版会、2005年</li> <li>・イリジャ・H・グールド(森丈夫監訳)『アメリカ帝国の胎動—ヨーロッパ国際秩序とアメリカ独立』彩流社、2016年。</li> <li>・貴堂嘉之『アメリカ合衆国と中国人移民—歴史のなかの「移民国家」アメリカ』名古屋大学出版会、2012年。</li> <li>・久保文明・金成隆一『アメリカ大統領選』岩波書店、2020年。</li> <li>・中野耕太郎『20世紀アメリカの夢：世紀転換期から1970年代』岩波書店、2019年。</li> <li>・古矢旬『アメリカニズム—「普遍国家」のナショナリズム』東京大学出版会、2002年。</li> <li>・古矢旬『グローバル時代のアメリカ：冷戦時代から21世紀』岩波書店、2020年。</li> <li>・待鳥聡史『アメリカ大統領制の現在：権限の弱さをどう乗り越えるか』NHKブックス、2016年。</li> <li>・渡辺将人『アメリカ政治の壁：利益と理念の狭間で』岩波書店、2016年。</li> <li>・渡辺靖『アメリカン・デモクラシーの逆説』岩波書店、2010年。</li> <li>・Robert D. Putnam, Our Kids: The American Dream in Crisis. Simon &amp; Schuster, 2015.</li> </ul>				
評価方法	<p>【単位修得要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必読文献の報告：20%</li> <li>・講義内での議論への参加：20%</li> <li>・学期末レポート：60%</li> </ul>				
参考URL					
その他					



科目分類	専門科目群-専門科目（北東アジア領域）		対象学年	1
授業科目	北東アジア専門講義21（北東アジア近現代史）		学期	秋学期
代表教員	石田 徹		選択/必修	選択
科目コード	H902241	授業形態	講義	単位数 2.0
授業の概要	<p>本講義では、北東アジアの近現代史を理解する上での前提となる、北東アジア在来の「秩序」すなわち「華夷秩序」について検討する。受講生の顔ぶれ次第ではあるが、岩波講座『東アジア近現代通史』輪読、もしくは夫馬進『朝鮮燕行使と朝鮮通信使』の輪読を考えている。詳細は初回講義時に受講生と話し合っ<b>て決めたい</b>。</p>			
授業の内容	<p>第1回 ガイダンス 第2回～第15回 テキスト輪読（必要に応じて適宜基礎概念について講義形式をとって解説することもある）</p>			
テキスト	輪読箇所を印刷して配布する予定である。			
参考文献	<p>岩波講座『東アジア近現代通史』全10巻、岩波書店。 和田春樹ほか『東アジア近現代通史』上下巻、岩波現代全書、2014年。 夫馬進『朝鮮燕行使と朝鮮通信使』名古屋大学出版会、2016年。 同編『中国東アジア外交交流史の研究』京都大学学術出版会、2007年。 岡本隆司『属国と自主のあいだ』名古屋大学出版会、2004年。 同『世界のなかの日清韓関係史』講談社、2008年。 茂木敏夫『変容する近代東アジアの国際秩序』山川出版社、1997年。 など。適宜紹介する。</p>			
評価方法	原則として、各回の輪読への参加状況（平常点：40%）と期末レポート（60%）によって評価する。			
参考URL				
その他				